

特集

脳神経内科医に求められる移行医療

企画 本誌編集委員会

移行医療とは、小児期発症の疾患を有する患者が成人期に向かう際、それまでの小児期医療から個々の患者に必要な成人期医療への橋渡しを行う医療を指す。成人期特有の症状に対する適切な医療の提供とともに、患者自身が自らの疾患と向き合い、管理するヘルスリテラシーの獲得を目指すものである。

スムーズな移行のためには、病態への理解はもちろん、小児科と成人診療科のみならず多職種間での連携が求められ、持続可能な体制づくりも課題である。また、保護者・患者の不安を和らげる丁寧な説明が不可欠で、小児科と成人診療科を併診しながら移行することが有効な場合もある。

本特集では、移行医療に取り組む医師たちの活動を紹介するとともに、小児疾患における移行の実践例や診療のポイントを解説した。移行医療への理解をいっそう深め、その実現に寄与していただくことを願っている。